

当園ではこの度、令和7年度の平群北幼稚園学校評価として、教職員での自己評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。また、自己評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。そのためにも、子ども達にとって相応しい、自然に囲まれ整えられた園環境の中で、様々な活動や体験、勉強をすることで、一人一人の子どもが自ら人と関わりともに切磋琢磨し、自発的主体的な活動を展開させることができるようになります。また幼稚園も、子ども達にたくさんの経験を与え教育することにより、これからの社会で生きる力の基礎となる「心情 意欲 態度」を培います。家庭と園が協力し子ども達を教育することで、園是「あかるく すなおに すこやかに」なる成長を望み、教育目標の達成に努めます。

I. 教育目標

5つの教育目標

- *礼儀正しく感謝のころをもつ子
- *心身ともに健全でたくましい子
- *豊かな感性をもち意欲的に活動する子
- *聞くこと話すことを大切にする子
- *善悪の判断をすることができる子

5つ教育方針

- *自然に囲まれ整えられた広い園内でさまざまな運動を行い、健全でたくましい身体を作る。（健康）
- *集団生活を通じて友だちと関わり、その中での決まりや約束事を守り、自主性や協調性を養う。（人間関係）
- *生命、自然、身近なものに関心をもち理解するとともに、思考力を養う。（環境）
- *会話、絵本、紙芝居等に親しみ正しい言葉を理解するとともに、相手の話を理解する力、自ら話す力を養う。（言葉）
- *音楽、身体表現、書道、絵画、製作等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力を養う。（表現）

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *教育課程の編成を充実させる
- *教職員同士の協力・連携を強固にする
- *指導とかかわりを充実させる
- *保護者への協力と支援を充実させる

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	園の方針や目標について、保護者の理解を促すように取り組んでいる。	B	・毎月、学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを各学年の保育案に載せて、保護者の方にお伝えしている。またホームページに毎月の様子を載せて、日々子どもたちの様子や園の行事について、保護者にまた一般の方にもお知らせしている。 ・今後も、子どもの様子やクラス全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させ、園と保護者との相互理解を深めていけるよう検討する。一方で母親就労の増加に伴い、負担となる来園機会を限定している。
2	教育課程の編成	園の教育課程・指導計画は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	B	・毎月、教職員の話し合いを通して、月の指導計画を作成している。また、日々の保育終了後、各自で一日を振り返り、保育の評価反省を行い、問題があれば相談し、次の保育に繋げている。 ・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	A	・園長、副園長そして先輩教諭からの助言や評価を受けて、それらの意見を取り入れて自身に生かしている。 ・必要に応じて教職員間での話し合いを行い、保育の向上に向けて取り組んでいる。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。（指導案の反省、クラスの状況報告など）
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。自然に囲まれた整理整頓された美しい園にする。	A	・多種の運動用具を使用し幼児の年齢に応じた運動、教材（絵本・たのしいおべんきょう）、絵画製作などに取り組んでいる。 ・園庭にある自然物を工夫して遊びの素材にする。3か所ある園庭を有効に活用し、大型遊具やボール遊び、三輪車や砂場遊び芝生広場での遊びを通して、こどもたちの遊びを充実させる。 ・多種多様な木々や季節の草花に集まる小動物や昆虫を観察できるように、又、果実を採ったり食したりする。
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感し、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、	B	・楽しい毎日を送ることができるよう、日々の保育や遊びを常に創意工夫をする。 ・子どもの遊びが発展するように、ヒントやアイデアを提供していく。 ・一人一人の個性や良さを伸ばしてあげる。 ・子どもたちの思いやかんがえを聞き、自信をもって行動できるように見守る。

		工夫することができるように見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。		・異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	・幼児のことについて、職員での話し合いを密に行い、情報共有に努めている。 ・その場で配慮が必要な時には、近くにいる教師がこどもに思いやりの気持ちと言葉がけをしていく。 ・保育に関して、教師間でお互いに相談し合い、幼児にとって楽しい保育ができるように取組んでいる。
7	研修・研究への取組み	最新の情報や保育について、専門機関と連携を図り、研修研究を行っている。	B	・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・必要に応じて専門機関に相談している。また保護者の思いを確認し、今後の方針について連携をとっている。 ・奈良県教員研修大会で研究発表を行った。
8	安全衛生への配慮	正しい手洗いやうがい、トイレの仕方をわかりやすく示し伝える。	A	・遊んだ後や食事前の手洗いやうがいの指導、ハンドソープや除菌スプレーを使用し安全衛生を強化している。 ・トイレの使い方やスリッパの並べ方等を子ども達に伝え、自主的にできるように取組んでいる。 ・教具や玩具、共有スペースの消毒を強化している。
9	緊急管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取組んでいる。	B	・感染症マニュアルを整備し、職員で共通理解すると共に、保護者にも配布し理解をして頂くように取組んでいる。 ・AEDの使い方の確認し、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。 ・感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
10	遊具等の安全管理	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	B	・毎日掃除をする中で、危険なところを意識して確認するようにしている。 ・遊具の下に安全マットを敷き、ジャングルジムや雲梯など高い所で遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。 ・定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整えている。
11	交通安全、施設等の安全管理の整備	交通安全指導や施設防犯管理体制をハード・ソフト両面から、整えている。	B	・今後も警察との連携を通して、交通安全や不審者対応について子ども達へ指導を強化している。 ・防犯カメラを5台設置、園門を2重に配置し、防犯体制を整えている。
12	子どもの虐待、健康状態の確認体制	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	A	・登園時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。

13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	B	・家庭訪問、保育参観や個人懇談、毎月のおたよりを通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。 ・日々の電話連絡や、メール配信またれんらくちょうを活用して、保護者の方と連携がとれる様にしている。 ・保護者の協力が必要な場合は、具体的な協力のあり方について話しあっている。
----	------------	--	---	--

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教育方針・目標	保護者に園の方針や目標について、更なる理解をして頂くように取り組む。
2	教育課程の編成	教育課程が年齢に応じた一人一人の子どもの発達に反映されているか、また、地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているかなど、教職員間で話し合い見直しを行い充実させる。
3	指導計画の作成と評価	各学年そして全体を通して教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしていく。
4	教育環境の構成	自然物を工夫して遊びの素材にして遊びや、戸外遊びでのボールや砂場遊びの遊具、絵本などの充実を図っていく。
5	指導とかかわり	子どもたちの思いや考えを取り入れ、自信をもって活動できるように、また異年齢の子ども達と一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。
6	教職員同士の協力・連携	教育、保育の質の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを共有し合う。
7	研修・研究への取り組み	研修に積極的に参加し、知識などを学ぶとともに、教師間で情報共有し、現場で実践できるように取り組む。
8	安全衛生への配慮	感染症等が流行する時期に合わせて、保健だよりや安全だよりを通じて保護者の方にも病気や怪我の予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9	緊急管理体制の整備	定期的に地震の避難、火災の避難訓練を実施し、全員で避難経路や手順を確認しあい、スムーズに実施できるようにする。
10	遊具等の安全管理	定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	交通安全、施設等の安全管理の整備	交通安全等、警察との連携を通して、交通ルールの確認や不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
12	子どもの虐待、健康状態の確認体制	児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保護者と適宜連絡を取り、家庭における子どもとのかかわり方や様子などを把握したことをもとに充実させ、子どもたちの理解を深めていく。

令和 7 年度 学校関係者評価結果報告書
学校法人 日本橋学園 幼保連携型認定こども園 平群北幼稚園

日 時 令和 8 年 4 月 2 4 日 (金)

内 容

- ・ 令和 7 年度自己評価結果について
- ・ 令和 8 年度事業計画について

○評価結果報告

令和 7 年度は幼保連携型認定こども園への移行のため、園舎改築や解体など幼稚園の転換期にあたる年度となりました。子どもたちには窮屈な思いもあったこととは思いますが、その中でも工夫をこらし教育保育を行っていただいたことと推察します。また子どもの様子もインスタグラムでの情報発信していることで、子ども達の様子がよくわかりました。ですが、情報発信も一つ間違えると大きな災いにつながります。情報漏えいや不審者対策など園での安全対策の強化、また地震や火災にくれぐれも注意して頂き、子ども達にとり安全で楽しい園であることを願います。またこの自己評価を通して昨年度の園運営を見直して頂き、新たな課題について職員で話し合いをして頂き、子ども達の健やかな成長と園の発展をお願いします。

評価委員

平群北幼稚園元会長
日本橋学園理事
卒園児保護者
在園児保護者
日本橋幼稚園園長
信貴幼稚園副園長

令和8年度 学校関係者評価委員会予定
学校法人 日本橋学園 幼保連携型認定こども園 平群北幼稚園

日 時 令和9年4月23日(金)予定

内 容

- ・令和8年度自己評価結果について
- ・令和9年度事業計画について
- ・評価委員結果報告

評価委員予定者

平群北幼稚園元会長

日本橋学園理事

卒園児保護者

在園児保護者

日本橋幼稚園園長

信貴幼稚園副園長